

一般財団法人埼玉県河川公社 中期経営計画 (令和5年度～7年度)

(一財) 埼玉県河川公社は、大場川マリーナ（八潮市）、芝川マリーナ（川口市）の2つの河川マリーナの管理・運営を中心に事業を実施しております。引き続き、計画的な経営を進めるため、新たに令和5年度を初年度とする3か年の中期経営計画を策定しました。

1 経営方針

当公社は、県民の安全で快適な生活環境を創出するため、県民の河川や水辺空間に対する正しい理解と一層の関心を高め、河川愛護思想の普及を図るとともに、県が進める不法係留対策に協力し、もって県民の福祉の向上に寄与することを目的に、次の方針に基づき経営を進めます。

- (1) マリーナの適正な船舶艇置数を確保し、かつ、業務の効率化を進め、安定した経営基盤を確立します。
- (2) マリーナ事業を核として、県民の河川や水辺空間に対する理解と関心を高め、河川愛護思想の普及と、水辺レクリエーション事業の振興を図ります。
- (3) 県の不法係留対策に協力し、適正な河川管理に貢献するとともに、河川の環境美化にも努めます。
- (4) 河川環境への負荷を低減するため、環境に配慮した施設の管理・運営に努めます。

2 経営目標

経営方針に基づいて、次のように具体的な経営目標を定めます。

- (1) 利用者の視点に立ったマリーナの管理・運営
- (2) 適正な艇置隻数の維持と安定的な収入の確保
- (3) 健全で安定的な財務、法人運営
- (4) 公益事業の継続的な実施
- (5) 河川環境へ配慮したマリーナの管理・運営

〈数値目標〉 令和5年度～令和7年度

項目	目標
艇置隻数	230隻の維持
艇置使用料収入	110百万円の維持
体験クルージング等の実施回数	4回/年

※数字は両マリーナの合計

(実績)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
艇置隻数	196隻	208隻	230隻
艇置使用料収益	91,596千円	98,223千円	110,535千円
正味財産期末残高	14,301千円	22,792千円	35,946千円

※数字は両マリーナの合計

※令和4年度は令和4年12月末時点の見込み

3 実施方策

経営目標の実現のため、次のような取り組みを行います。

(1) 利用者の視点に立ったマリーナの管理・運営

- マリーナ利用者のニーズの把握に努めるとともに、マリーナ業務について運営のノウハウを持つ民間専門会社へ委託を行うことで、質の高いサービスを提供します。
- 利用者にとって安心、安全、快適で居心地のよいマリーナを目指し、設備の点検、維持、修繕、更新を適切に実施します。
- 船舶の艇置業務、上下架作業、給油・給水・給電等の供給業務、出入管理、利用者への航行情報の提供を適切に実施します。

(2) 適正な艇置隻数の維持と安定的収入の確保

コロナ禍で屋外レジャーが志向され増加したと考えられる艇置隻数を維持するため、過年度より取り組んできた方策を効果的に実施します。

- 地元企業や団体等の広報誌、また船舶関連雑誌への取材記事等への掲載を働きかけ、河川マリーナの特性を生かしたPRに努めます。
- ホームページの運営を通じて、マリーナのPRとともに、公社に関する情報を広く発信します。
- 地元市や地元の各種団体等へのPR活動を実施します。

○ 艇置使用料や施設利用料の割引などのキャンペーンを通じ、新規利用者の掘起しや利用者サービスの向上を図ります。

○ 大場川・芝川マリーナでの総合展示場の運営を継続して行います。

また、マリーナ業務委託先の実施する小型船舶免許講習事業を継続し、免許保有者の拡大を図るとともに、免許取得者のニーズに応えるため、芝川マリーナをレンタルボートの利用拠点として活用し、単なるボート保管場所ではなく広く県民の水上レクリエーションのための施設として認知度の向上を図ります。

(3) 健全で安定的な財務と法人運営

○ 常に各支出の見直しを行い、経費の削減に努めます。

○ 直面する課題へ取り組み、健全で安定的に組織を運営するため、業務の効率化と人員整備を図ります。

(4) 公益事業の継続的实施

○ 県民に身近にクルージングに親しんでもらうため、「体験クルージング」を開催します。

○ 地元主催の事業とタイアップし、体験クルージングなど河川や水辺空間に親しむための事業を開催します。

(5) 河川環境へ配慮したマリーナの管理・運営

○ ゴミや汚水（燃料、油類含む）の河川への流出の防止に取り組み、万一の事態にも備えます。

○ 船舶所有者へ働きかけ、協働して美化も含め河川環境を守る活動に取り組みます。

4 財務計画

(単位：百万円、%)

科 目	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
	金 額		金 額	4年度比	金 額	4年度比	金 額	4年度比
当期正味財産増減額	1 3	100	4	—	1	—	2	—
正味財産期末残高	3 6	100	4 0	111	4 1	114	4 3	119
長期借入金残高	1 1 8	100	1 1 3	96	1 0 8	92	1 0 3	87
金融機関	0	100	0	—	0	—	0	—
県	1 1 8	100	1 1 3	96	1 0 8	92	1 0 3	87

※令和4年度は見込数字

※県の債務保証、損失補償はありません